

『マコはハルモニア・ムンディにのって踊る』 (7) 知恵の手紙

ロクスひよりやま キャプテン 中井 淳 SJ
(旧下関労働教育センター イエズス会神父)



マコがフィリピンのミンダナオから戻ると、日本はようやく秋の到来を感じるくらいには暑さが和らいでいた。マコが慕っているエミリさんが東京から福岡へ出張する機会に、マコに会いに来てくれた。エミリさんは、性的虐待や人身売買といった暴力によって傷ついたアジアの女性たちの心のトラウマを癒す活動をしてきた人だ。だから、耳を傾け、人の心に寄り添うことをきちんと訓練したエミリさんと話していると、いつしかマコは、友人たちにも語らない内面の奥深くの痛みをいつしか分かちあっていた。マコがずっと抱えてきた弱さを、エミリさんは受けとめてくれた。

次の日の朝目が覚めると、心が晴れ晴れとしていることに気づいた。「聴いてもらうこと」、「受けとめてもらうこと」がどれだけ心を癒してくれるかをマコは体感した。エミリさんの出発までまだ時間があったので、マコはエミリさんを誘って、小高い山に登った。木立の中を歩いていると、おのずと“先住民の宿している知恵”について話題が展開した。エミリさんはマレーシアの密林の中で先住民たちと暮らしながら修士論文を書いた経験がある。だから、マコがミンダナオで過ごした体験を興味深そうに聴いてくれた。「ねえ、マコちゃんが言ってくれていることが、ちょうど私が今読み返している本に書かれていることと響き合っているのよね。私は一度読んだから、マコちゃんにかしてあげる。」そうして、エミリさんがカバンから出して渡してくれた本は、アメリカ大陸の先住民たちに伝わる伝承を集めたものだった。そして、導かれるように、その本の筆者ホークウインド（鷹の風）さんが提供している“知恵の手紙”という2年間のコースにマコも参加することになった。二週間ごとにホークウインドさんから手紙が届き、そこで示されたものを材料に瞑想していくというものだ。マコは、今自分に必要なのは、この霊的な旅路なのだというを感じていた。トマス・ベリー神父さん、瀬川神父さん、そしてミンダナオのパドロ神父さんが先住民の知恵から学んだように、自分もきっとこの旅路の中で変容されていくのだ、とマコは感じた。

いよいよ西の街の木々も紅葉し始めた頃、瀬川神父の企画した、青年たちのための“エコロジカル黙想会”にマコもスタッフとして参加した。瀬川神父は、自分が翻訳して出版した『エコロジカルな回心のための霊的な旅路』をテキストに、最近は黙想プログラムをたくさん行っている。黙想会は、神戸の六甲山のキャンプ場で行われた。広い牧場で静かに、日常を振り返って祈る時間、そして祈ったことを二人のペアになって分かちあう時間はとても豊かな時間だった。特に都会から来た青年たちにとっては格別の体験だったに違いない。二日目は、自分のこれからの歩みを曼荼羅に描くという作業を行ない、その後、それぞれの曼荼羅に描かれたものを分かちあった。牧場で祈った一日目の時間が上手く統合されているようで、みんなに共通していたテーマは「自然と共に歩む」ということだった。



「自然に心を開いたら、全てのことは繋がっているのだと気づくことができるようになった」と分かちあってくれている青年たちの言葉を聴きながら、エコロジカルな黙想をもっとより良く手伝いたい、そのためにはきっと先住民の知恵から学んでいく「風の便り」の旅路が何よりもマコを助けてくれるだろうと思うのだった。
(つづく)

★カトリック広島教区 ハラスメント相談窓口：広島教区人権擁護デスク★

受付時間 木曜日（祝日を除く）9:00～16:00 電話番号 082-555-1127

メール：desk-hiroshima@catholic.hiroshima.jp

H・Social**H・Social**H・Social**H・Social**H・Social**H・Social

発行 カトリック広島教区 平和の使徒推進本部 正義と平和推進デスク

TEL：082-221-6613 FAX：082-221-6019 E-Mail info@social-desk.net